

園のおたより



第 2 号

令和 5 年 5 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

むし歯

園長 関 由起子

ある日、子ども（3歳頃）の歯を覗いてみると、黒い点がありました。黒ゴマ？ なにかの食べかす？ と思い、歯ブラシで擦っても取れませんでした。夫の歯科受診の時ついでに子どもも見てもらったところ、虫歯でした！ 幸い発見が早く、軽い処置のみで完了し、それからは3ヶ月に1度の定期検診と、歯磨きおよびキシリトールタブレットで必死に虫歯を予防しました。成人した今、むし歯が一つもないことを祈りたいのですが、歯科の先生のお話によると、高校生以降になるとむし歯が増えるそうです。親の目が届かなくなり、そして部活や受験、友人との関わりの中で生活が不規則となり、歯磨きしないまま寝てしまうことが増えるからだそうです。成人したとはいえ、まだまだ子どもの歯は心配事です。

私のように昭和生まれの世代では、6歳時点での虫歯の保有率は9割を超えていたそうです。けれども現在はむし歯が一つもない子どもが半数以上にのぼり、その理由として生活習慣の改善やフッ化物配合歯磨剤の普及があるそうです。一方で口腔崩壊（むし歯が10本以上ある、歯の根しか残っていないような未処置歯が何本もあるなど、咀嚼が困難な状態）の子ども数も増えているそうです。口腔崩壊の原因として歯科受診しないことがあり、その背景には貧困などにより生活に余裕が無いことや、「乳歯が虫歯の場合、永久歯に生え変われば大丈夫」という間違った認識などがあるそうです。埼玉大学で小児歯科の授業を担当して下さっている歯科の先生も、口腔崩壊で給食が噛めない子どもについてお話され、子どもの歯の健康にも家庭の経済問題が影響していることをあらためて認識いたしました。

こどもが3歳で歯科受診した時、私もついでに受診したところ、虫歯が10本あると言われました。口腔崩壊です！ これは私が歯科検診を怠けたせい입니다。お母さんは子どもが小さいときには自分のことは後回しになりがちです。もうすぐ「歯と口の健康週間」です。是非保護者の方々もご自身の口の中の健康チェックをお忘れなく！



はじめの一步

毎年、年度当初には、新年度の活気と共に、みんなが少し手探りしているような雰囲気を感じますが、今年も4月、5月と園生活が続き、毎日の幼稚園が少しずつ落ち着いた動きになってきたことを実感しています。

子どもたちにとって（もちろん、大人もそうですが）、生活する中では「はじめて」がたくさんあります。面白そうなことも、少し難しそうなことも、自分からやってみようという「はじめの一步」の場面がたくさんあります。

幼稚園の中で子どもたちと関わっていく際、それぞれの「はじめの一步」の姿に出会うことがあります。例えば、何か新しい遊びを見つけた時、面白そうと感じてすぐに「私も入れて！」と入っていく人、一方で、入りたいけれど近からず遠からずの距離を取りつつ様子を見ている人がいます。大人に「〇〇ちゃんもしてみる？」と尋ねられて「うん！」と嬉しそうに加わる人もいれば、さっと別のところに身を移す人もいます。翌日、やっぱりという表情でやってみる人、もう一度誘われて今度は嬉しそうにする人…、いろいろな「はじめの一步」の形があります。

一人の人の中でも、「はじめて」の物事、場面によって、すぐに「はじめの一步」が出ることもあれば、別のシチュエーションではなかなか「はじめの一步」が出ないということも往々にしてあるでしょう。私自身の幼少期を思い出してみると、やってみたい気持ちはあるけれど、見ているだけでいいかなという気持ちも同時に持っていたことが、総じて多かったように思い返されます。“もっと自分からやってみればいいのに”と、周りの大人は思っていたかも知れません。とは言え、慎重かと思いきや意外と大胆と言われることもありましたので、場面によって、思い切りのよい「はじめの一步」を踏み出していたのでしょう。

さて、本園の教育目標は、「子どもの『自らのびる力』を育てる」です。子どもたちが「はじめの一步」を踏み出す姿を支えることも、教育目標を実現する一つだと捉えています。子どもも大人もそれぞれに「はじめの一步」の踏み出し方があり、いろいろな「はじめの一步」のやり方があることが、互いの「はじめの一步」に影響し合っています。とても素早い一步、長い時間をかけてようやく踏み出した一步、隣の人的一步に呼応して出した一步、体は動かないけれど気持ちはとても動いている一步…、どのような一步も、その「はじめの一步」が出たということがとても貴いことです。次の一步までまた時間が必要なこともあるかも知れませんが、「はじめの一步」があったことで、次の歩みへのつながりを自身で感じ取れるのだと思います。

幼児期に一つでも二つでも、「はじめの一步」を踏み出した瞬間を、子どもたち自身が自分の大切な出来事として感じられるように関わっていきたいと思います。

(副園長)

クラスだより



1くみ

「みんなですごすひと時」

連休が明けて新しく弁当が始まっています。家ではない場所で、家族以外の人と一緒に過ごす食事の時間は特別感があるようです。いつも10時半を過ぎたころになると、「お弁当、まだ？」と楽しみにする様子の人もいます。

遊びの中で、積み木のお城やお風呂、畳のままごとの場所に人が集まっていることがよくあります。楽しそうだなと感じて近づき、同じものを手に持ったり、同じものになりきったりして、一緒にいることで感じる安心感があるようです。また、それぞれの好きな遊びをする時間の他に、クラスみんなで集まって過ごす時間も設けています。4月末から、誕生日を迎えた人をお祝いする「お誕生会」を1組でも進めています。一緒に過ごす友達の名前や顔を知ったり、「たんじょうび」の歌を歌ったりする他、気になることを聞いてみるインタビューもあります。お祝いをみんなにしてもらって嬉しそうな人を見ると、なんだか周りの人も幸せな気持ちになるようです。

みんなでゲームをしたり、音楽に合わせて踊ってみたりすることもあります。「いちごミルクゲーム」は繰り返し遊んでいるゲームで、やり方はフルーツバスケットと同じです。いちごとミルクのどちらかを選んで遊びます。「いちごミルク！」の掛け声に合わせてみんなで一斉に動くことが面白く、お昼前などの時間の楽しみの一つになっています。「どうぶつたいそう 1・2・3」の曲では、ゾウやアヒルなど、いろいろな動物になりきって体を動かしています。大勢で同じように動いてみるのも楽しいです。

それぞれがやりたいことを夢中でできるよう支えていくと共に、場所や時間、楽しい気持ちや嬉しい気持ちをみんなと一緒に分かち合う体験もこれからたくさん積み重ねていきたいと思います。





2くみ



「友達と同じ世界を楽しむ」

幼稚園で遊ぶことを楽しみに登園する人が増え、着替え終わると室内や園庭で自分のやりたいことを見つけてすぐに遊びが始まります。

ある週明け、Aさんが休日にお出かけをした話をしたことをきっかけに、興味をもった数人と一緒にテーマパークを作ることになりました。初めは、どんなアトラクションを作るか考えることにしました。自分が乗ったことのあるものを思い出しながら、ダンボールのついたてや巧技台を使って、お化け屋敷などのアトラクションをテラスに作っていきます。アトラクションが出来上がってくると、他の友達も集まってきて、「ここにおばけがいたら怖くなるよ」と画用紙で新しくお化けを作ってみたり、「身長を測るやつがあるんだよ」とビニールテープで柱に印を付けたり、一人一人が思い付いたアイデアを作り、アトラクションに加えていくことで、「もっとこうしたい」という思いが生まれていきました。

お化け屋敷ができ、さらにたくさんのお客さんがやってくると、出口から出られないように通せんぼするお化けが現れました。訳を聞いてみると「お化け屋敷に入るとお化けになって出てこれないんだよ」と理由を話してくれました。それを聞いたBさんは、「じゃあ、この列車に乗ったら帰って来られるようにしようよ」と、新しくお化け屋敷の中を鉄道が通れるようにお化け屋敷を作り替えていきます。列車が中を通るようになると「お客さんが来た時にわーって驚かす人がいたらもっと怖くなるよ」と列車が通るタイミングに合わせて驚かす人が登場したり、お化けになりきったまま他の遊びを楽しんだり、遊びに加わる友達が増える度に、新しい遊び方が生まれ、友達と同じ世界に浸りながら遊ぶことを楽しんでいます。

遊びの場を介して、友達と一緒に遊ぶ楽しさを少しずつ感じています。一人一人の「もっとこうしたい」という思いを実現する手助けをしながら、友達と一緒に遊びを作っていく面白さも感じられるよう支えていきたいと思っています。



3くみ



「自然ってなんだろう」

自然観察園の桜の葉やヨモギ、幼稚園の駐車場に咲いていたツツジの色を白い布に染めて、こいのぼりを作りました。興味の合う友達と一緒に作ったこいのぼりへの想いは大きいようでした。これから春の香りを感じる度に、この時に味わった思いや感覚をフワリと思い出すかもしれませんね。

それから、大きく育ったら染めることも1つの楽しみとして、藍を栽培することにしました。「あい?」「あいつて、アイのこと?」と、物の名前を漢字に変換しない子どもたちは、いろいろにイメージを膨らませています。素敵ですね。アイが生き生きと美しく育ったら嬉しいですね。藍の芽が出て喜んでいるのですが、そうでない草も生えていて、どちらが藍の芽なのか分からず、毎日じっくり見ている人や、図鑑で調べたりしながら考えている人がいます。ある人が「あのね、きつこっちの葉っぱが“アイ”だと思うよ。だってね、こっちの葉っぱは北浦和公園でも見たことがあるもん。」と。公園で見たことのない葉がきつこ“アイ”なのだと言っています。なるほどですね。

また、おうちの方と一緒に玉ねぎの皮で布を染めることもしました。普段食べない皮がきれいな褐色に染まり、驚きとともに、自然への関心を、ますます高めていると思います。

自然ってなんだろうという話題がありました。「葉っぱは生きている」「いや、おしゃべりしないから生きている」「虫はおしゃべりしないよ」「虫は生きている。動いているから」「葉っぱだって動くよ。風が来たらね」「人が植えたものは自然じゃないんだ。最初からあるものが自然なんだ」…深い問いの中で、自分なりの思いや考えを巡らせたり、話し合ったりしました。

体験から生まれたものは、素敵な物だけでなく、大きな大きな問いと、お互いを知ることへつながる気付きなのだと、教えてもらいました。